

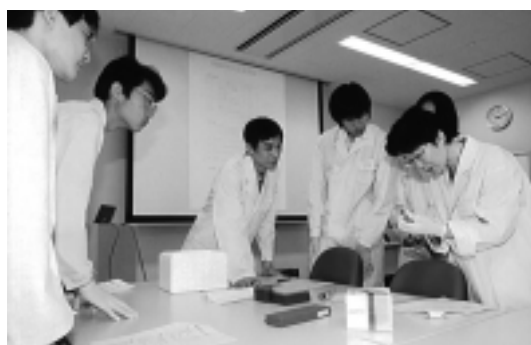
### 一般公開

理研は、毎年4月18日の「発明の日」を中心とした科学技術週間行事の一環として、理研の研究室や施設を一般公開している。この行事は、国民の科学技術への関心と理解を深めるために、1960年（昭和35年）度にスタートした。理研はその年から参加し、施設の公開と「やさしい科学」と題した講演会を行っている。現在、和光、筑波、横浜をはじめ全研究拠点を公開し、2004年は全体で1万2,000人近い人たちが理研を訪れている。

#### 和光



#### 横浜



神戸



筑波



播磨





第1回は、「レーザー」「ライフサイエンス」がテーマに取り上げられた

### 科学講演会

科学講演会は1978年11月、理研（特殊法人）設立20周年記念として東京・大手町の経団連会館で開かれた。理研が行っている先端科学を、一般の人にわかりやすく提供するのが目的である。東京を起点に東北から九州へ全国で開催し、理研の中身が見える講演会として定着している。2004年で26回に達した。



第25回は「脳科学の夢」と題し、脳研究の権威者である甘利俊一、伊藤正男、利根川進の3氏（左から）が講演



第26回（2004年）のテーマは「分子から始まる新しい科学」。酸化チタンで知られる藤嶋昭東大名誉教授、野依理事長らが分子が拓く新しい世界を紹介した



### 青少年に科学技術の目を

青少年や一般市民の科学技術への関心を高めるため、理研は各種のイベントを積極的に展開している。文部科学省が2002年度から創設した「科学技術・理科大好きプラン」の一環として、全国の高校から選ばれた科学教育重点高校「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の見学の受け入れ、また、高校や中学が大学や研究機関と連携して、科学の強化授業を行う「サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)」を実施している。このほか、高校生などが実際の研究現場で最新の装置などを使って研究体験実習を行う「サイエンス・キャンプ」(1995年創設)に参加、生涯学習の一環として市民大学講座(和光市教育委員会主催)や子供向け科学講座「クリスマスレクチャー」を開催し、幅広い層に科学技術の楽しさを語りかけている。



スーパーサイエンスハイスクール

市民大学講座



クリスマスレクチャー



サイエンス・キャンプ



「理化学研究所と親しむ会」初代会長の  
太田幹二氏

### 理化学研究所と親しむ会

産業界と理研の連携を深め、新産業の創成に資することを目的に、理研と関連産業界の率先発意により設立され、産業界との交流を活発に展開している。理研の研究成果に直接触れる講演会や見学会、懇親会を定期的に開催。2005年2月の開催（東京・虎の門のホテルオークラ）で交流会は18回に達した。



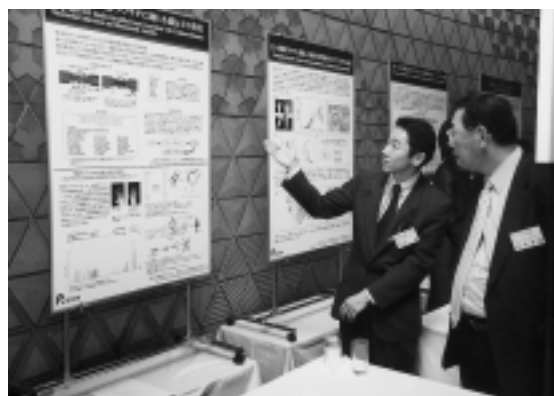
多くの産業人に囲まれ、和やかに名刺交換する野依理事長



第17回は発生・再生科学総合研究センターの  
竹市雅俊センター長が講演



森田浩介前任研究員が  
「新元素113番」発見の経緯を  
講演（第18回）



理研の研究成果に聞き入る産業人



1974年11月、OB会発足後、歓談する朝永振一郎初代会長（右から2人目）

第21回談話会  
(2004年10月28日、理研)  
で挨拶する野依理事長



### 理研OB会

理研OB会は、理研および研究所で定年制、任期制の職員、委託研究生、研修生など、何らかの身分を有していた人たちが会員となり、会員相互の親睦、在職者との交流を図り、会員活動を通して研究所発展の一助にするのが目的。総会は2004年で31回、談話会は21回を数える。



第21回談話会で上坪宏道加速器研究施設統括調整役（左端）がユーモアを交えて挨拶



第30回総会后に開いた懇親会



第31回総会で挨拶する大石武会長



春爛漫の和光キャンパス  
(中央研究所研究本館)